



東山代小学校便り

※学校ホームページ



※写真等パスワード
higashi07

2025. 11. 4

文責：中尾

◆「人にやさしく、まじめにがんばる子」

◆ 6年生の主体的な活動：「あいさつ運動」

10月1日(水)の全校集会で「挨拶」について話をしました。話の概要は次のとおりです。

みなさんは、「挨拶」にはとても重要な意味があることを知っていますか。「挨拶」ができる人と、そうでない人では人生が大きく変わるかもしれません。そのくらい大事なことです。「挨拶」という言葉の意味を調べると、「挨」…自分の心を開く、「拶」…自分から相手に近づくという意味があるようです。みなさんが、友だちや先生たちなど、自分以外の人たちとつながったり、仲よくなったりするためには、自分から相手に心を開き、自分から相手に近づいていく必要があります。その第一歩が「挨拶」なのです。逆に挨拶ができない、挨拶をしないということは、自分から相手に心を開かず、相手に近づくこともしないということです。人とつながることはできないということになります。たくさんの友だちや先生たちとつながり、楽しい学校生活を送るには、何よりも「挨拶」が大切だということです。では、どんな「挨拶」ができるといいのでしょうか。みなさんは、「語先後礼(ごせんごれい)」という言葉を知っていますか。これは「言葉を先に、礼を後に」という意味です。まず、相手の人を見ます。そして、「おはようございます」などの「挨拶」の言葉を言ってからお辞儀をするという動作です。この後、教室で練習してみてください。そして、授業の始まりと終わりの「挨拶」も「語先後礼(ごせんごれい)」でしてみてください。

翌朝、以前から「あいさつ運動」をしようとしていた6年生の男子を中心に、ぞくぞくと子どもたちが集まり始めました。その数はどんどん増えていき、最終的には50名を超えました。人数が減ったとは言え、この6年生の主体的な活動は1か月続いています。この活動が始まり2週間が過ぎた頃、地域の方が6年生のために「あいさつ運動」という看板を作ってくださいました。子どもたちの姿が地域の方々の心を動かし、地域の方々が子どもたちや学校を応援して下さるという理想的な展開となりました。この活動のおかげで、本校の「挨拶」は格段に気持ちのよいものになっています。子どもたちの力で、この学校の生活を変えていく！「私たちの東山代小学校は、私たちが創る！」6年生がよき伝統を残そうとしています。



◆PTA のみなさま、ありがとうございました：PTA 奉仕作業

10月17日(金)の18時から「PTA 奉仕作業」が行われました。昼間の仕事でお疲れのところ、多くの保護者の皆様にお集まりいただき、校内のいたるところの清掃を行っていただきました。

当初計画していた場所以外も清掃していただきました。

新築校舎とはいえ、子どもたちの手が届く範囲は限られており、保護者の方々のお力添えは大変ありがたく、また学校としては大変嬉しいことです。子どもたちには、「この東山代小学校を愛してほしい」「この東山代小学校で学んでいることを誇りに感じてほしい」と思っています。今回の保護者の皆様の姿は、子どもたちの愛校心につながっていくものと思います。本当にありがとうございました。



◆地域の伝統を受け継ぐ…

10月11日(土)に青幡神社の例大祭が行われました。本校の6年生4名が「巫女の舞」を奉納しました。コミュニティセンターで練習していた4名の姿をぜひ見てみたいと思いましたし、脇野の浮立にも興味がありましたので出かけたところです。

「巫女の舞」については、歴史ある青幡神社が醸し出す厳(おごそ)かな雰囲気の中で舞う子どもたちの姿に感動しました。子どもたちの純真さが伝わってきました。ご指導いただきました前田正義先生、山本景子先生、武藤タカ子先生、ありがとうございました。

また、脇野の浮立についても、この東山代町という地で長年大切に受け継がれてきたものがもつ魅力に感動しました。

「少子化で地域の伝統文化の継承が難しい」という言葉をいろいろなところで耳にします。受け継ぐ側にも受け渡す側にも相応のエネルギーが必要だと思いますが、この東山代町のかけがえのない財産だということは間違いのないと思います。



◆ほほえましい子どもの姿⑥

「あいさつ運動」が始まって間もない頃、「おっはようございまーす！」と元気な声であいさつをして通り過ぎていった男の子がいました。「上手！」と言って見送りましたが、戻って来て「忘れとった。もう一回せんば…。ほら何とかいうとば…。」「語先後礼やろう！」「そいそい！」

その姿が健気でかわいいこと。心が洗われると共に、朝から笑ってしまいました。